

岐阜大学附属中学校の生徒を対象とした音楽鑑賞会の実践報告
—音楽系部活動所属生徒を対象として—

Practical report of music appreciation party for students of Gifu University junior high school
—For students of music club activities—

仲田久美子※・近野賢一※・松井裕樹※・鳥井雄介※※

KUMIKO NAKADA ・KENICHI KONNO ・HIROKI MATSUI ・YUSUKE TORII

※岐阜大学教育学部音楽教育講座 ※※岐阜大学附属中学校教諭

キーワード：実演、中学校、鑑賞、音楽

1.はじめに

1.1 本論は、2019年3月16日に実施した岐阜大学附属中学校合唱部員18名と顧問3名を岐阜大学音楽棟へ招いて音楽鑑賞会を開催した際の実践報告である。

この音楽鑑賞会の約1カ月前、2019年2月7日には岐阜大学附属中学校音楽室で音楽鑑賞授業を開催したが、そこではドビュッシー没後100年を記念したプログラムでフランスの音楽を中心に鑑賞授業を行った。また、このときの鑑賞授業では「学ぶことに興味や関心をもつ」というきっかけを作り、生徒自身が自分の耳で聴くための手助けを中心として行った。そして、生徒達が自主的に授業に参加しやすいようにアンケート用紙を準備し、配布して回収した。そのときのアンケート結果を集計しまとめたものを岐阜大学教育学部研究報告人文科学第68巻第1号2019年で報告している。今回、本論で報告する音楽鑑賞会でもアンケート用紙を配布し、鑑賞会の振り返りを演奏者へ発信してもらうことができた。アンケート用紙は付録2に掲載してあるのでご参照いただきたい。

1.2 この音楽鑑賞会で聴き取ってほしいと設定した目標（以下、目標）は、合唱部の生徒たちが、①自分たちが歌っている合唱曲との違いを味わい、ドビュッシーやフランスの音楽のよさを見つけること、②ピアノの構造を知り、個々のピアノが持つ音色や響きの違いを聴き取ることができること、③フランス歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲のそれぞれ言葉の違う歌を聴き、それらの印象の違いを感じ取ることができること、であった。そのため、構成は下記のようなものとなった。（※プログラム詳細は付録1をご覧ください）

構成

- 1、楽器のレクチャー（スタインウェイ、ベーゼンドルファー、ヤマハ）
- 2、ピアノ独奏 ドビュッシー『ベルガマスク組曲』より「月の光」（ヤマハ使用）
- 3、はじめに ～ごあいさつ～
- 4、ピアノ連弾 ドビュッシー『小組曲』より「小舟にて」「バレエ」曲目解説と演奏（スタインウェイ使用）
- 5、バリトン独唱 ドビュッシー「美しい夕暮れ」曲目解説と演奏（ベーゼンドルファー使用）
- 6、ピアノ連弾 フォーレ『組曲ドリー』より「子守歌」曲目解説と演奏（スタインウェイ使用）
- 7、バリトン独唱 デュパルク「フィディレ」曲目解説と演奏（スタインウェイ使用）
- 8、バリトン独唱 シューマン「献呈」曲目解説と演奏（ベーゼンドルファー使用）

9、バリトン独唱 越谷達之助「初恋」曲目解説と演奏（ヤマハ使用）

1.3 先述の目標3点（①自分たちが歌っている合唱曲との違いを味わい、ドビュッシーやフランスの音楽のよさを見つけること、②ピアノの構造を知り、個々のピアノが持つ音色や響きの違いを聴き取ることができると、③フランス歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲のそれぞれ言葉の違う歌を聴き、それらの印象の違いを感じ取ることができること）を掲げたのは、「鑑賞」と「表現」とが相互作用することにより、より良い演奏表現ができるようになるだろうと常々考えているからである。筆者達は、たとえ「鑑賞」で感受したものが個人の印象に留まっただけだったとしても、その個人の「感受」や「印象」がその後の表現活動の糧になると考えている。しかし、一方では、いくら聴き方は自由とはいえ、何か道しるべを示すことで、より一層味わいが深くなるであろうとも考えている。

1.4 生徒・児童を対象とした音楽鑑賞の授業や音楽鑑賞会を開催するにあたり、方法論について調べたり、音楽の授業で配布されている記述用紙について調べたりした。また、鑑賞の観点の設定方法や、表現との関連についても先行研究を調べた。この音楽鑑賞会を終えてから「新しい音楽鑑賞：知識から体験へ」久保田慶一著（2019年）に出会った。この本は指導者を対象に書かれており、「ティーチング・アーティスト」という新しい分野について紹介している。まず、「エントリーポイント」と呼ばれる作品の世界に導くための「侵入地点」（p.38）を設定すること、そのエントリーポイントは必ず次に続く「アクティビティ」へ繋がっていくことが大切である（p.39）と久保田は述べている。

筆者達にとって新鮮だったのは、次の文章（p.44）であった。

エントリーポイントというのは、音楽経験の少ない聴衆にとっても、音楽の内容を理解して、価値ある体験ができるための「入り口」なのです。曲目解説で「曲の表面上の、たとえば、ABAの形式であるとか、何年に作曲されたのか」という情報の提供にとどまらずに、作品に内在する「音楽の力」に触れるようにするための「切り口」ともいえるでしょう。聴衆を引き込むために必要となる、作品の音楽的に優れた特徴であると言ってもいいかもしれません。

この文章を読みながら、筆者達が音楽鑑賞会を行った際に設定していた目標をひとつひとつ照らし合わせてみた。まず、「①自分たちが歌っている合唱曲との違いを味わい、ドビュッシーやフランスの音楽のよさを見つけること」については、音楽系部活動所属とはいえ、音楽的経験のそれほど深くないであろう生徒達にとっては、初めて聴く未知の音楽であるドビュッシーの響きやフランス音楽を聴きながら自分達が普段歌っている合唱曲とを比較することは難しかったかもしれない。しかし、エントリーポイントとしての「入り口」を設定するのであれば、「普段自分達が歌っている合唱曲とドビュッシーやフランスの音楽とはどこが違いますか」という質問をしなくて正解であった。そして、音楽鑑賞会では「音楽のよさを見つける」というように設定したが、これにより結果として感性が豊かになった、と考えることができる。以下は、文部科学省平成29年告示の学習指導要領解説（音楽編）第2章「音楽科の目標及び内容」の第1節「音楽科の目標」（p.10）からの引用である。

音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けること」であると考えられる。「音楽に対する感性」とは、音や音楽のよさや美しさなどの質的

な世界を価値あるものとして感じ取る時の心の働きを意味している。音楽科の学習は、生徒が音や音楽の存在に気づき、それらを主体的に捉えることによって成立する。生徒が、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていくとき、生徒の音楽に対する感性が働く。したがって、音楽に対する感性を働かせることによって音楽科の学習は成立し、その学習を積み重ねることによって音楽に対する感性は豊かになっていく。

次に「②ピアノの構造を知り、個々のピアノが持つ音色や響きの違いを聴き取ることができること」については、岐阜大学音楽棟が管理しているグランドピアノを有効に活用した取り組みであったし、贅沢な楽器の聴き比べができたという点で画期的であったといえるだろう。今回の音楽鑑賞会で演奏の前に「楽器レクチャー」をしたことで、事前に楽器のことを知ってから音色の聴き比べができて大変有効であったといえる。

最後に「③フランス歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲のそれぞれ言葉の違う歌を聴き、それらの印象の違いを感じ取ることができること」については、歌詞の言語の違いに気が付かない者はいないと思われる。生徒達個々の感じ方は違って当然だし、感じ取ることができれば良いのであるから、エントリーポイントとして妥当であったといえよう。

1.5 岐阜大学附属中学校の合唱部について

本校の合唱部は現在 19 名の部員で活動している。過去には NHK 全国学校音楽コンクール第 80 回、同コンクール第 83 回全国コンクールに出場しており、メディアにも取り上げられた。また、第 8 回声楽アンサンブルコンテストでは全国大会にて銅賞を受賞している。

部員たちは意欲関心も高く、非常に意欲的に練習に取り組んでいる。特に、自分たちの声量や声域に関しての関心は高い。しかし、普段の練習はコンクールを念頭に置いた練習になりがちで、音楽科の教員としては、生徒たちが幅広い作品や諸外国の音楽など多種多様な音楽に触れながら、楽曲の特徴を感じ取ったり、音楽そのものの良さを味わったりする場面も欲しいと感じている。本鑑賞会を通して合唱以外のジャンルの音楽や、外国語の歌曲の鑑賞を通して、様々な音楽に触れることによって、生徒たちの感性が豊かになり、今後の合唱表現が深める機会になればと考えた。

2.この音楽鑑賞会のプログラム構成と内容の詳細について

2.1 この音楽鑑賞会のプログラム構成について

当音楽鑑賞会は前述の通り 2018 年度岐阜大学活性化経費助成によって「ドビュッシー没後 100 年～ドビュッシーとその周辺」のタイトルで行った全 3 公演のうちの最終公演として開催した。前 2 公演は 2018 年 12 月 12 日にぎふ清流文化プラザにて、2019 年 2 月 7 日に岐阜大学教育学部附属中学校にて行い、本鑑賞会での演奏曲目は 2018 年 12 月開催の第 1 公演からの抜粋を中心に、新しく 2 つの歌曲と解説を加えて構成している。

鑑賞会前半に一連の公演のテーマであるドビュッシーの作品を、後半にはドビュッシーに関連する作曲家の作品を据えており、各曲の間に解説を行った。また会場には 3 種類のグランドピアノが備えられていることをいかし、その違いを味わってもらうために、冒頭では使用する 3 種類のグランドピアノについて解説を加えている。

なお当日配布のプログラムを【付録 1】として掲載している。

2.2 プログラム内容詳細について

2019年3月16日(土)会場である岐阜大学教育学部音楽棟の大合奏室に、岐阜大学附属中学校合唱部員18名と顧問3名が到着した後、午前10時30分に開演した。

音楽鑑賞会の導入として、まずは会場にある3種類のグランドピアノについて松井がレクチャーを行った。内容は、3種類の各メーカーのグランドピアノの基本的な構造や製造工程などについて、またそれぞれの楽器が生み出す音色の違いや特色について、映像を交えながら説明した。

その後、音楽鑑賞会の本編として、最初にドビュッシー作曲『ベルガマスク組曲』より「月の光」を仲田が演奏した。解説はあえて行わず、まずは演奏を味わってもらうことを目的とした。使用楽器はヤマハ製。

続いて仲田が冒頭のあいさつと演奏会の概要説明、そして次に演奏する楽曲の解説を行った。演奏曲は仲田と松井によるピアノ連弾、ドビュッシー作曲『小組曲』より第1曲「小舟にて」、第4曲「バレエ」で、使用楽器はスタインウェイ製。楽曲の説明では特にドビュッシーの全音音階について触れ、聴き手が曲中に現れるモチーフに気づけるよう、聴きどころを紹介した。

次に近野が解説を行った後、近野と松井による歌曲、ドビュッシー作曲「美しい夕暮れ」の演奏を行った。解説の内容は、ドビュッシーの歌曲の成立に関する内容が中心で、この作品が出版された彼の最初の歌曲であることや、作曲者18歳の頃の作品であり、聴き手である中学生とそう大きく年齢が変わらないことを伝えた。そのことで作曲家を身近に感じ、さらにその驚くべき才能に注目してもらえるように紹介した。またこの頃の歌曲作品の多くがマリー＝ブランシュ・ヴァニエ夫人に捧げられたことや、ポール・ブルジェの詩の内容についても話した。使用楽器はベーゼンドルファー製。

続いて仲田が解説を行い、仲田と松井によるピアノ連弾、フォーレ作曲『組曲ドリー』より「子守歌」の演奏を行った。解説では機能と声についての説明やフォーレが用いた旋法について触れ、本鑑賞会前半で取り上げたドビュッシーの作品との違いを説明した。使用楽器はスタインウェイ製。

次に近野が、続いて演奏する曲について解説を行った。内容は、まずデュパルクの生涯について、また演奏曲「フィディレ」のルコント・ド＝リルによる詩の内容について、さらにシューマンの歌曲集『ミルテの花』の成立について説明した。特に歌曲集『ミルテの花』については、ミルテという花が結婚式の頭飾りに用いられる花であり、シューマンがクララ・ヴィークとの困難の末の結婚式で花嫁にこの歌曲集を送ったことなどを話した。また越谷達之助の「初恋」とその詩人である石川啄木について、それぞれ解説した。その後デュパルク作曲「フィディレ」を近野・松井がスタインウェイ製ピアノにて、シューマン作曲『ミルテの花』より第1曲「献呈」を近野・仲田がベーゼンドルファー製ピアノにて、越谷達之助作曲「初恋」を同じく近野・仲田がヤマハ製ピアノにて演奏した。

岐阜大学教育学部音楽棟大合奏室における音楽鑑賞会は以上で終演し、E201室へと移動して配布したアンケート用紙への記入をしてもらった。

3. アンケート結果と考察

今回のアンケートは、生徒が感じたことを自由に書けるよう記述式の設問を中心としたものとした。これは、新指導要領において指導内容の改善として示された「言語活動の充実」を踏まえたものである。言語活動が充実したものとなるためには、生徒が音や音楽に対して、その価値や良さを自由に考えたり感じたりすることが必要であると考え。従って、予め用意した選択肢を選ばせたり資料を見せたりするのではなく、自由に記述する方式とした。なお、今回は鑑賞会として、演奏を聴くことを優先させたので、生徒たちが意見交流を図る場は設けてはいない。

鑑賞会全体を通しては、次のような感想が見られた。

生徒1：ドビュッシーの作る曲には、切なさを表す音が使われていることが分かった。また、独唱に合わせてられているピアノは、優しい感じで、ドビュッシーの人格が分かった。

生徒2：鑑賞会でドビュッシーらしさというのが分かった。

生徒3：音の躍動感や迫力が授業よりもよく感じることができました。また、ピアノを弾く手や先生の表情を見ることができて、曲に対する想いや力強さが授業よりも伝わってきました。

生徒4：他のピアノと違って、響き方などがとてもきれいでした。3つのピアノの中でも響きが違って色んな音色を聴くことができました。

生徒5：真ん中にあったピアノの音がとても豊かで聴いていてとてもいい気分になった。

生徒6：真ん中のピアノと右にあるピアノの音色の違いはあまりわからなかったけど、ヤマハのピアノは違いを感じることができた。

これらの感想からは、豊かな感性で自由に音楽と向き合う生徒の様子がうかがえる。生徒1はドビュッシーの曲には「切なさを表す音」があると表現し、さらに「ドビュッシーの人格が分かった」と述べている。生徒1がこのように感じた理由は記述からは読み取れないが、音楽によって自己のイメージ・感情が喚起されていることがはっきりとわかる感想であるといえ、興味深い。また、同様に生徒2も「ドビュッシーらしさが分かった」としており、具体的な要素は記述されていないが、ドビュッシーの音楽に対する自分なりのイメージ像が生徒の心の中に生まれたことが推察される。また、生徒3は「ピアノを弾く手や先生の表情を見ることができて、曲に対する想いや力強さが授業よりも伝わって」きたとしており、音楽以外にもプレイヤーの表情や手の動きといった視覚的な面からも、様々なイメージや感情が喚起されたことがわかる。また、生徒4・生徒5・生徒6はピアノの音色や響きに注目していたことがわかり、興味深い感想である。

これらの記述からは、ドビュッシーの音楽についてイメージが膨らんだ生徒もいれば、視覚的な情報や楽器の音色といった要素に興味を持った生徒もおり、様々な視点で自分なりに音楽を楽しんでいることがわかる。本鑑賞の後に言語による交流活動を設定すれば、深まりのある生徒たちの議論が展開できるのではないだろうか。例えば、ドビュッシーの音楽に何か喚起された生徒・プレイヤーの表情など視覚的な面からイメージを得た生徒・ピアノの音色や響きに注目した生徒といったようにグループを分け、それぞれのグループで意見をまとめた後、違うグループの意見と交流をして見解を深めるといった授業展開ができる。特に生徒6は、ヤマハ以外のピアノの音色について何か感じた生徒と、意見を交流してみたいと思うのではないだろうか。ただし、ここで重要なことは、最初に聴く視点をあえて与えていない点であると考え。今回のアンケートでは自由に記述させたため、上記のような記述が得られたといえる。充実した言語活動は、生徒が主

体的な視点で鑑賞することによってなされるべきであろう。

また、次のような感想も見られた。

生徒7：生で演奏を聴いて音の躍動感や迫力が授業よりもよく感じることができました。また、ピアノを弾く手や先生の表情を見ることができて、曲に対する想いや力強さが授業よりも伝わってきました。

生徒8：生で聴いたので少しの音の違いなどがわかったり演奏者が前にいるので弾き方の違いがよくわかりました。

生徒9：音を聴いているだけで、曲のイメージが膨らみ、情景が思い浮かびました。

生徒10：いつもはCDでしか聴けないけれど、生で聴いてみて、やはり迫力が違うなど感じました。また、音の重なりがどうなっているかなど目で見て体感できました。

生徒11：授業とは違い生で演奏を聴くことでピアノの違いや良さ、曲の流れに合わせたピアノの響きなどがより明らかでした。

生徒12：生で聴く方がずっと美しかったです。

生徒13：学校で行う鑑賞の授業は1つの曲についてを詳しくやる感じだったけど、今回は様々な曲を色々なピアノ、演奏者、作曲家で聴けて、比べることができた。だから、よりそれぞれの個性が分かり易くなり理解することができた。

生徒7・生徒8・生徒9・生徒10・生徒11・生徒12の感想からは、実演奏での鑑賞が生徒たちの鮮明なイメージや感情の喚起につながったことがわかる。つまり、生演奏での鑑賞は、充実した鑑賞学習の一助となりえるということがいえる。また、生徒13の感想は、鑑賞学習において複数曲を取り上げることで学習がより深まるということを示唆しているといえ、鑑賞学習の在り方にヒントを与える意見といえよう。

また、前回の筆者らの報告(仲田ほか 2019)では、フランス音楽に限定したプログラムで鑑賞会を行ったが、本鑑賞会では、日本語による歌曲・フランス語による歌曲・ドイツ語による歌曲をプログラムに取り入れ、生徒たちはそれぞれの歌曲の違いを味わった。生徒たちからは次のような感想が見られた。

生徒14：

フランス語の発音がやわらかい感じや開放的な感じの印象があった。(フランス語歌曲)

ドイツ語は子音や語尾が強いことが多いから、情熱や恋への思いが強い印象があった。(ドイツ語歌曲)

歌詞自体はすごく短いけれど、初恋の痛みを思い出している情景が長い時間で表されているから、当時の気持ちに長い時間浸っている印象があった。(日本語歌曲)

生徒15：

すごく感情が高まっていく様子がよく分かって激しい感じがした。(フランス語歌曲)

彼女を想う気持ちがよく伝わってきて、静かで力強い感じがした。(ドイツ語歌曲)

他の言葉よりも柔らかく優しい印象を受けて、静かに燃えている感じがした。(日本語歌曲)

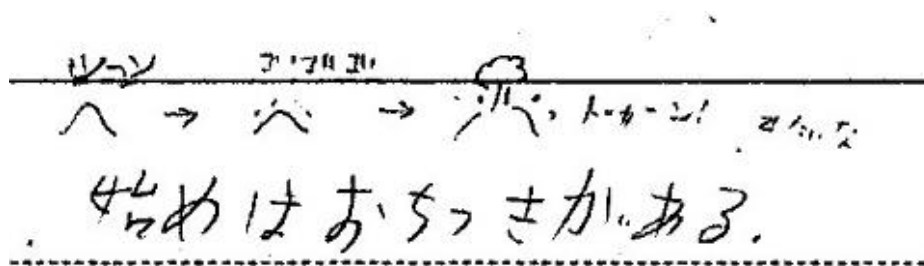
生徒16：

和音などから、長閑な昼を感じれた。(フランス語歌曲)

シューマンの妻への深い愛を感じた。(ドイツ語歌曲)

同じ歌詞を繰り返しているのに、それぞれ音色が違って繰り返すごとに違う印象を受けた。(日本語歌曲)

これらの生徒たちの感想は、同一の曲でも様々な感想となっており興味深い。例えば、フランス語の歌曲について生徒14はフランス語の発音から「やわらかい感じや開放的な感じの印象」を受けているのに対し、生徒15は「激しい感じがした」と述べている。また、生徒16は「長閑な昼を感じれた」とし、生徒たちが自分なりのイメージを持ちながら聴いていたことがわかる。また、下図のように、絵を描いて自分の感じたことをまとめた生徒もいた(図1)。



【図 1】：生徒の描いた感想の絵

ところで、これらの感想の違いは、自分たちが一番印象に残った部分について記述したためと考えられる。従って、一見対照的な感想が記述されているように見えるが、どの感想も曲のイメージを的確にとらえているといえ、興味深い。また、これらの感想は、言葉が分からない曲でも鑑賞教材として成立し、生徒たちは主体的に学習を行うことができることを示しているといえる。詩人の谷川俊太郎は「言葉の意味が分からなくても、言葉の音にはそれだけで通じるものがある」(『岐阜新聞』2019.12.27 朝刊、第11版、3面)と述べているが、生徒たちは豊かな感性で言葉や音楽の持つ味わいを捉えているといえる。

また、この鑑賞の後に意見交流の場を設定すれば、本鑑賞会で取り上げた曲目についてより深く学習することが可能になるのではないだろうか。例えば、印象に残った部分をいくつかのパートに分類し、同じ感想を持つ仲間とグループを作り、歌詞の意味を調べたり音楽の構造について確かめたりしながら、別のグループの仲間と確かめたことを交流すれば、学習を深めていくことができそうである。

前回の筆者らの報告の中では、音楽を鑑賞し言語化することや、言葉を用いて仲間とコミュニケーションをしながら学習をすることについて、様々な専門家の指摘を引用した。具体的には、言語化する活動は音楽そのものを味わうことを阻害することにつながるのではないかとといった指摘や、音楽を鑑賞し感じたことを正確に言語化することは難しいというものであった。しかし、本鑑賞会では、生徒らが記述した内容は実に様々であり、感想には自由な言葉で自分たちの感じたことが記述されていた。これらの感想を交流する場を設けることで、生徒たちの学びが深まるのではないかと考えられる。しかし、先述の通り、これらの活動は生徒たちの主体的な鑑賞の上に成り立つものであると考えられる。従って、生徒たちが自由に感想を持つことができる導入や、鑑賞教材の設定、ワークシートの工夫が必須と言えよう。

4.さいごに

今後、音楽鑑賞会や音楽の鑑賞授業を行う場合に心がけたいことは、次の2点である。1点目は、楽曲の

背景や楽曲の構造を伝達するだけにとどまらない、そして、2点目は音楽の要素をあらかじめ伝え、それが曲中でどのように聴こえたかについて覚えてもらうことを目標にしない、である。そして、今回のような音楽系部活動の児童生徒たちへの音楽鑑賞会では、音楽様式や音楽史的な観点という知識の面や技術面とあわせて、音楽がもつ多種多様な表情の変化やその表現方法についても伝えるべきだと感じた。

また、ワークシートについては、児童生徒たちが持つ自由な感性がより育つような音楽鑑賞会を行うためにも、発問や記載内容に、より一層の工夫が必要である。

そして、我々演奏者が真のティーチング・アーティストになるためにも「聴くための導入」に焦点を当てて検討を続けていくべきだと感じた。

5. 引用文献・参考文献

久保田慶一『新しい音楽鑑賞：知識から体験へ』2019年 水曜社

文部科学省 平成29・30年改訂 学習指導要領解説

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_006.pdf#search=%27%E9%9F%B3%E6%A5%BD+%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%A6%81%E9%A0%98%E8%A7%A3%E8%AA%AC%27

(2019年12月17日最終閲覧)

文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』

仲田久美子・近野賢一・松井裕樹・鳥井雄介(2019)「実演を取り入れた授業実践の提案(vol.1)中学校音楽科鑑賞授業において」、『岐阜大学教育学部研究報告 人文科学』第68巻1号

【付録1】プログラム

プログラム	
ドビュッシー 『ベルガマスク組曲』より 月の光	(ピアノ独奏：仲田久美子)
ドビュッシー 『小組曲』より 第1曲：小舟にて 第4曲：バレエ	(ピアノ連弾：仲田久美子・松井裕樹)
ドビュッシー 美しい夕暮れ	(バリトン独唱：近野賢一 ピアノ：松井裕樹)
フォーレ 組曲『ドリー』より 子守歌	(ピアノ連弾：仲田久美子・松井裕樹)
デュバルク フィディレ	
シューマン 献呈	
越谷達之助 初恋	(バリトン独唱：近野賢一 ピアノ：仲田久美子・松井裕樹)

< 曲目解説 >

◆ドビュッシー作曲 『ベルガマスク組曲』より 月の光

1889年に作曲され、1903年に出版された。題名にある「ベルガマスク」とは「ベルガモ地方の住民」を意味しており、ポール・ヴェルレーヌの詩から着想を得たと言われている。旋律線や和声の進行は、色彩豊かで光が柔らかく当たって美しいだけでなく、どこかに影が感じられる。また、非常に繊細でロマンチックな雰囲気、透明感、柔らかな月の光を連想させる。

◆ドビュッシー作曲 『小組曲』より 第1曲：小舟にて 第4曲：バレエ

クロード・ドビュッシーは1862年にパリ近郊のサン・ジェルマン・アン・レーという町で生まれ、1918年に亡くなったフランス近代の作曲家。昨年2018年が没後100年にあたる。この曲は初期の1889年に作曲された全4曲で構成されているピアノ連弾用組曲で、第1曲「小舟にて」は湖の上に浮かぶ小さな舟を表現しているのか、静かに揺れているようである。第4曲「バレエ」は中間部での穏やかなワルツが印象的な曲。曲の最後では、主題が再び奏される。

◆ドビュッシー作曲 美しい夕暮れ

ドビュッシーの作曲の最初期に書かれた作品。後の歌曲の中で最初に出版されたとされる作品で、18歳頃の作(16歳の説もあり)。美しい夕暮れの情景と人生のはかなさが重ねて描かれている。

◆フォーレ作曲 組曲『ドリー』より 子守歌

ガブリエル・フォーレは古典宗教育実学校(通称ニデルメイエル校)で音楽を習得し、グレゴリオ聖歌やルネサンス期の合唱音楽を学んでいる。フォーレは「導音のもつ緊張が主音に進む弛緩という安心感のある動きをもつ」と「長調なのか短調なのかどちらとも言えない浮遊感と曖昧さをもつ」とを融合させ、独自の音楽表現を成功させた。第1曲「子守歌」は大変さわやかで素朴な曲。

[※]ルネサンス期とは、バロック期の前で、バッハよりも古い時代である。

◆デュバルク作曲 フィディレ

アンリ・デュバルクは500に近い歌曲を作曲しながら、生来の内向的な性格と厳しい自己批評から17曲を残して自ら放棄してしまった。37歳であった1885年頃から神経衰弱におちいり、その後48年間は何も作曲せず、85歳で静かにその生涯を閉じた。

「フィディレ」はけだるい昼下がり、牧場でまどろむ恋人フィディレの姿が描かれている。転調と伴奏の変化が巧みに駆使されながら、次第に高まる情熱、激しい恋の想いが歌い上げられる。友人で作曲家のエルネスト・ショーンソンに献呈された。

◆シューマン作曲 献呈

ロベルト・シューマンはドイツのロマン派を代表する作曲家である。この曲は彼が1840年に作曲した歌曲集『ミルデの花』に第1曲として収められている。またこの歌曲集『ミルデの花』は妻クララとの結婚式の日に、彼女に献呈されている。

◆越谷達之助作曲 初恋

越谷達之助は日本の音楽教育家として活動した人物である。この曲は、石川啄木の短歌に曲を付けた歌曲集『啄木によせて歌へる』の第1曲。1938年に発表された。拍子が頻繁に変わるのが特徴。

【付録2】アンケート用紙

音楽鑑賞会 ～ドビュッシーとその周辺～



1. 演奏を聴いて、鑑賞の授業と比較しながら感じたことや思ったことを自由に書いてみましょう。

2. ドビュッシーの音楽やフランス音楽について、自分たちの合唱音楽と比較しながら感想を書いてみましょう。

3. 3種類のピアノで演奏を聴きましたが、当てはまるものを選んで（複数選択可）、感想を自由に書いてみましょう。

- ① 説明を聞いて構造上の違いが分かった ② 説明を聞いたが構造上の違いはわからなかった
③ それぞれのピアノで音色や味わいが違うと感じた ④ どのピアノもそんなに変わらなかった

4. フランス歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲とそれぞれ言葉の違う歌でどのような印象の違いがありましたか。

【フィディレ】(フランス語)
【献上】(ドイツ語)
【初恋】(日本語)

5. 質問等があれば自由に書いてください。

